

千姫の秘密

辻 憲男（文学部教授）

お市の方の娘三人のうち、長女茶々は豊臣秀吉に（淀殿）、三女お江戸は徳川秀忠に嫁いだ。そしてその子供どうし、秀頼と千姫がままとのような結婚をした。彼女らによって、織田－豊臣－徳川が一すじに結びついた。

1615年の大坂夏の陣に、千姫が坂崎出羽守に救出されたのは有名な話である。淀君と秀頼は城にとどまった。42年前、お市と幼い娘たちは小谷城（滋賀県湖北町）から逃れ、浅井氏は滅んだ。32年前、三姉妹は北ノ庄（福井市）から脱出し、お市は柴田勝家と運命をともにした。悲劇はくり返した。

翌年、千姫は本多忠刻（ほんだただとき）に再嫁した。婚約を反故にされた坂崎は、千姫からも嫌われ、逆心を起こして自滅した。円地文子の小説『千姫春秋記』によると、火中に千姫をおぶった坂崎は、サンショウウオのような四十男だった。あれ以来、千姫の胸に“蛇”が住みついた。美しい外見に隠れて、「内心の傷痕（しょうい）が深いほど、勝ち気な千姫は自分だけの経験した苦悩や悲哀や羞恥を秘筐（ひきょう）にこめて、胸の中から出さぬことに特異な誇りを感じる」ようになった。江戸の母の元へ帰る途中、伊勢桑名の船中で美男の忠刻に心を奪われたとて、どうしたというのじゃ。「あの頃の私は、あの人の眼ざめるような美しさにでもすがりつかねば生きて行かれぬほど疲れていた…」。

千姫夫妻は姫路城に来て、仲むつまじく十年を暮らした。夫と息子に先立たれたあと江戸に帰り、世の徳川への風当たりを尼の身に引き受けたともいう。



姫路城西の丸と化粧櫓（やぐら）。
千姫はここから向かいの男山八幡と天満宮を遥拝した。